

会 議 録

1 会議名

令和6年度第9回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和7年2月12日（水）午後6時30分から午後7時45分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、青山委員、鴨井委員、小玉委員、関澤委員、関谷委員、田中（実）委員、田中（由）委員、保坂委員、増田委員、丸山委員（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：鴨井委員、関澤委員に依頼
- 議題【自主的な審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

・資料No.1 「第9回直江津区地域協議会での検討事項」

資料No.2 「今後の協議の進め方について」

参考資料「令和7年度直江津のランドデザインを描く事業（概要）」に基づき説明

【磯田会長】

資料No.1にあるように、四つの検討項目についてどういう順番で優先順位をつけながら自主的審議として検討していくのか、例えば、同時並行的にこの四つの項目を話していくのか、方向性がある程度見えているものを先行するか、着手する優先順位や方法についてご意見をいただきたい。

【保坂委員】

福島城に関することについては、もう課題が見えていて、方向性もおおむねこの方向かと思っている。

三八朝市も、令和7年度の直江津プライド2021の取組の報告から入っていけばいいと思う。

五智公園に関することについては、いろいろと意見があり、五智公園と交通公園を一体とした遊び場にするなど、まだまだ協議をする時間が必要ではないかと思う。

防災に関することについては、市の担当課との意見交換や、町内会から話を聞くなど、いろいろ検討することがあるので、まず分けるとしたら、福島城と三八朝市を一緒にして、五智公園と防災に関することを一緒にして、協議をしていけばいいのではないかと思う。

これを個々にやるのか、全体でやるのか、あるいは班ごとにやるのかだが、班ごとにやるよりも、全体で進めていった方がいいのではないかと考えている。

【増田委員】

福島城に関することは、資料No.2に「正副会長や少人数で福島城を愛する会と話をし」と書いてあるので、すぐに先方と連絡を取って進めていく必要があると思う。

同じく、五智公園に関することについても、五智公園を育てる会の人たちが活動しているので、育てる会の皆さんの気持ちを聞いてから五智公園の全体像を考えるということで、こちらのほうも、正副会長とプラスアルファの少人数で、まず意見を聞くということと並行的に先んじてやったらどうか。

それから、五智公園の全体像については、この前いろいろな意見が出た。いろいろな発想もあるしアイデアもあるので、育てる会の皆さんの気持ちを踏まえて、この会議で

話し合えばいいのではないかと思う。

福島城に関することも、愛する会の皆さんの意向を聞いた上で、この会でどういうふうにしたらいいかということ話し合っていくようにしたらいいと思う。

三八朝市も防災も、全員が理解した上で進めるためにも全体会でやるのがいいと思う。

【関谷委員】

順序、優先順位については、ご意見のとおりでいいのではないかと思う。ただ、活動団体の方たちの思いが分からないので、正副会長が聞いてきたことを伝えていただくよりも、もし時間が取れるのであれば、一緒にディスカッションすることで、もう少しこちらでも理解が深まるのではないかと思う。

【磯田会長】

できればここに来ていただいて、全体で意見交換するのはどうかのご意見もあったが、それぞれの団体の状況が少し異なる部分もあり、福島城を愛する会については、少しセンシティブな問題もあるので、まずは正副会長と事務局で打診というような形で話を始めたほうが、よりスムーズに話に入っていくのではないかと私は感じている。

その中で、全体で意見交換する方向に行けそうだという判断がついたら、この場に来ていただくということもあると考えている。

今ほどのご意見をまとめると、次にやる程度見えている項目については先行して進めていくということで、福島城に関することについては、正副会長プラス事務局で先行して動かさせていただく。

五智公園を育てる会の方たちとの意見交換については、この場に来ていただいて意見交換させてもらうのもいいかと思うが、既にそういうことは協議会で何回かやっているので、事前に相手方の反応を少し見ながらになるのではないかと考えている。

五智公園については、育てる会だけではなくて、全体的な五智の魅力創出というようなどころについて、もう少し突っ込んだ議論や、我々のアイデアや発想を、事業化に向けていけるような検討をする必要がある。それは、自主的審議事項として、より回を重ねて検討していくようになるのではないかと感じた。

防災に関することについては、市がどういうスタンスで協議会との関わりを考えているのか、町内会とは実際どのように連携していくのか、そこに我々は協力していくことができるのかどうか。その辺を考える基礎として、まずは市担当課から市の今までの取組や今後取り組んでいくことをお聞きして、そこからスタートをしていくべきではない

かと思う。

そう考えていくと、恐らく、同時並行的に動くというよりは、タイムラグが少しずつあって、議論の重たいところは時間がかかっていくような感じで動いていくのではないかと推察される。

四つの項目をより分析していくと、議論として我々がすぐに入れるのは、五智公園、五智周辺をどうしていくのか、その次は、防災に関して市の話聞いた後で、我々がどう動いていけばいいのかという辺りが、1番、2番という位置付けになっていくのではないかと考えている。

福島城に関する事については、福島城を愛する会からお話しをお聞きした中で、進展するのが難しいか見定めていきながら、進めていく形になろうかと思う。

三八朝市に関する事については、令和7年度に直江津プライド2021が、現状の調査や似顔絵看板づくり、イベント的な朝市を社会実験的に実施する予定である。その事業をやっていくにあたって、朝市組合の人や、市民団体など、いろいろな方々との協力や観光振興課との調整も必要になってくるので、逐次協議会に報告しながら、その中で行政にプッシュしていく部分等があれば、地域協議会に協力をお願いしていきたいと思っているし、令和7年度の事業を踏まえた上で、8年度、9年度、今後、どのように三八朝市をやっていけばいいかということを経験協議会で議論を深めていってはどうかと思っている。

【鴨井委員】

今の内容でいいと思う。

福島城に関して、何か問題があるというのは、あまり前向きではないような感じなのか。

例えば、港町の町内会の会長副会長に少し足を運んでもらったりして、町内会も巻き込まないとうまくいかないのではないかと。

【磯田会長】

福島城を愛する会の存続や、会を持続させるための議論というよりは、福島城関連の資料をどう生かしていくかという観点でまず話をしていかなければいけないと思っている。愛する会の方で、これからどんどん発信していくと言っただけなのであれば、会の人たちと新たな方向性を作っていくという道筋になるかもしれないし、会として、なかなか今の状況を打破できないというような話になった場合、教育委員会に資料を預

かっていただいて、もう少し生かしていける方向はないのかというような話にシフトしていく可能性もあると思っている。担い手というところの話になってくると、非常に難しいところもあるが、まずはそういう方向で話していこうと思っている。

【関澤委員】

基本的には皆さんの考え方と一緒に、会長が言われた方法でよいと思う。

五智公園に関して、私は役員的一端を担っているが、自分たちの興味のあることにだけまっすぐな方々なので、五智エリア全体の活性化というような話にはならない気がする。

私が一番問題にしているのが、防災に関してである。

議論が少し逆行するようで申し訳ないが、町内会長の立場から言わせていただくと、一言で言えば余計なお世話だというような気がする。

形骸化していると言われているが、どの町内が形骸化しているのか。五智ではそんなことはないと思うし、皆さん防災訓練もやっているし、元旦の能登半島地震を教訓にして、設備も整えたり、組織の見直しをしたり、いろいろなことを進めてやっている。それを協議会の皆さんが入ってきて、果たして何をやりたいのかよく分からない。今のままだでも十分形骸化などしてないと思う。三八朝市や福島城に関することは、今ほどの方向で進めていってもらって構わないと思うが、防災に関しては引っかかるころがある。町内会の行事にまで協議会が首を突っ込むのはどうかと思う。町内会長イコール自主防災組織の本部長というのがほとんどである。そんなところに首を突っ込むよりは、海水浴場の避難階段を何とかしたほうが私はいいと思う。

【増田委員】

私もその意見に賛成で、町内の自主防災組織に地域協議会が物申すのはいかなものかということである。それは、その町内の皆さんにお任せしておけばいい。

私たちが問題にしているのは、町内の皆さんがいろいろ考えて、行政に意見や要望を上げて、行政の反応が悪い場合には、地域協議会が町内会の皆さんに協力して、行政をプッシュしなければいけないと思っている。だから、避難階段の件は、まさに地域協議会がプッシュする事項だと思っている。

そのほかに、避難所の運営の仕方について、上越市の避難所の運営がすごく遅れている。そのことについては、町内会の皆さんも、町内会長の皆さんも、一生懸命言っていると思うが、議会の答弁を見ても、危機管理課の答弁が全然なっていない。「こんなこ

とじゃいかん。」とプッシュするのは、やはり町内会長協議会の皆さんと、地域協議会が協力していかなければならないと思う。

特に、避難所に避難する際の混乱等については、行政としてきちんと反省しているのかどうか。避難しなくてもいい人が避難して、大渋滞を起こした、高田まで行ったという話が聞こえてくる。それから某避難所へ行ったときに、毛布が足りなかった、食料がなかった、暖房がなかったといった話が、どのように解決されたのか、まだ私たちはよく聞いていない。その辺りも、しっかりと地域協議会としても押さえていく必要があるのではないか。恐らく、そのことに関しては、3月の議会でも何人かの議員の皆さんが質問されると思うので、その質問を聞いた上で、地域協議会としてどうするか、真剣に考えていく必要があるのではないか。

特に地震では、8号線から海側の被害が多かったが、ほかの地域協議会はあまり被害がないので、それほど熱心さが無い。高田はほとんど揺れていないが、直江津はもろに被害がある。

地域協議会が一生懸命地域の皆さんのことを考えてあげなければ、誰が考えるのかということになってしまう。そういう面では、五智のように直接津波の直撃は受けないにしても、地震があれば建物が壊れる。建物が壊れたら住めない。一晩、二晩をどこかで過ごすのではなくて、建物に住めなくなったら1か月、2か月をどうするのかという問題がある。そういう問題に、行政は全然考えが及んでいないので、そういうことも含めて、しっかりと対処していかなければいけないと思っている。

【関谷委員】

町内会に何だかんだと口出しするのはいかなものかというのは、ごもっともな意見である。地域協議会は、自主防災組織が行政に話を持っていっても吸い上げてもらえなかったものについて、何かできることがあればということになっていくのではないかと。

今回は避難階段を見てきたし、あそこに関しては、本当にしっかり言っていかなければ絶対に改善されないと思うので、ぜひそこら辺をやっていただければありがたいと思っている。

【関澤委員】

避難所については本当に問題だらけである。だから、行政を呼んでそこら辺について話をしていただくのは、非常に我々にとってもありがたいことだと思う。住民がみんな学校や高い建物のところへ集中して行けば収拾がつかなくなる。だから、避難所に関し

て、行政の皆さんの意見を聞くというのは、私は必要ではないかと感じている。

【古澤副会長】

昨年の能登半島地震について、2月1日に直江津地区町内会長協議会で意見交換会を行った。そのときに、やはり問題がたくさん出たので、私から危機管理課に意見交換会をやってほしいと依頼して、3月26日に直江津区内の町内会と市で意見交換会を行った。そのときに、私たちから意見、要望を出し、順次解決してもらっている。

その後、10月8日に上越市の防災訓練が実施された。そのときに、全町内に避難経路が分かるか聞いたところ、まだ分かっていないという町内会も多くあった。避難経路は確立しているが、それは町内会長、防災士、民生委員だけで話が終わっているような状況である。

各町内会で防災訓練をやる場合、1か月前に危機管理課へ報告することになっているので、昨年、危機管理課に防災訓練の実施状況を聞いたが、やはり全町内がやっているわけではなかった。ただ、能登半島地震があったからやっているのか、やっていないのか、その把握もきちんとしていかなければならないのではないかと考えている。

町内会には、防災資機材購入時に世帯数に応じた市の補助があり、私の町内では、発電機や、夜に地震があった場合の対応に必要なものを要求してきた。今月の町内回覧に要求したことを書きたいと思うが、一般の方は知らない部分が多々あるのではないかと考えるので、皆さんから知っておいてもらったほうがいいのではないかと考える。

【磯田会長】

地域協議会が町内会の一つ一つの事業や、人事的なことまで介入していくつもりはないし、そういう計画もしてはいないということは、まず押さえておかなければいけないと思う。

その中で、各自主防災組織には温度差があるのも事実である。その温度差をなるべく一緒のレベルにまで上げていかなければいけないという課題を、地域協議会の中で共有していただければと思う。

どういう取組をしていくのかということについては、昨年、防災士会の皆さんと検討した事業では、例えば、避難所運営ゲームをやったり、避難所の体験、AEDの講習会、防災ポスターやAEDマップの作成、マイタイムラインの勉強会等の、具体的な提案も考える中で、地域協議会がどのような音頭を取れるのか、または、地域協議会と町内会が防災についてより密接に取り組んでいくことができるのかということについて議論していき

ましようという趣旨で、自主的審議事項に入れていると思っている。

次回になるかその次になるかは分からないが、防災担当課を呼んで、その辺についてもう少しフランクな意見交換をすることから始めてみてはどうか。

重要な課題だと思うので、自主的審議として議論を深めていくというスタンスでよいか。

(委員同意)

【増田委員】

その関連で、資料No.2の「活動が形骸化している自主防災組織がある」という表現は、やわらかい表現に変える必要があると思う。

【磯田会長】

増田委員の意見について、皆さんよいか。文面については、事務局一任でよいか。

(委員同意)

今日の方向性については、大体決まったと思う。進行できる部分については、正副会長プラスアルファで話を進めていく。防災に関しては、防災担当課に来ていただいて、地域とどう連携していけばいいのか、あるいは、地域協議会が担える役割にはどういうことがあるのか、あるいは、市では、町内会とどういう連携をしようとしているのか等、そんな形の意見交換ができればいいと思っている。逆に、皆さんが聞きたいようなこと、あるいは、確認しなければいけないと認識しているようなことを出していただいて、事前に相手先に届けておくというような形もしたいと思う。

【石崎係長】

防災担当課との意見交換については承知したところだが、すでに今年度、能登半島地震以降の市の取組について担当課から報告してもらっているのも、もしまた来てもらうとなれば、具体的に何を聞きたいかしっかりまとめていただきたい。

【磯田会長】

今ここで考えをまとめるのも難しいと思うので、後日、各自出していただくのがいいのではないかと思う。

どういう意見の取りまとめの仕方がよいと思うか。

【丸山委員】

事務局に各々提出してもらって、整理の仕方については、事務局や三役にお任せするという形が、皆さん意見を出しやすいと思う。

【磯田会長】

各自、聞きたいことを事務局に提出していただいて、その中で整理をつけて、担当課にこんな話を聞きたいということで打診をしたほうがいいのではないかと提案があったが、その方針でよいか。

(委員同意)

では、事務局から、それについての案内を各委員に出していただきたい。

基本的には、全体会で皆さん全員の顔が見える中で議論していきたいと思う。

まず、次回の会議までに、福島城を愛する会にコンタクトをとって、どういう話になったか皆さんにご報告をしていきたい。

その他、すぐに皆で話せるのは、五智公園、五智エリアを、今後どうしていったらいいか、五智公園を育てる会の課題の話だけではなくて、交通公園や神社仏閣なども含めた、五智エリアの検討というのは、すぐにでも入っていけるのではないかと考えている。

五智公園、五智のエリアを見学されてきた中で、自分なりの課題や、こういうことをしてみたらどうか、こういう団体を作ってみたらどうかというようなことも含めて、皆さんから少し頭の体操をしてきていただければありがたい。

【増田委員】

五智公園に関しては、青少年文化センターを廃止したときに地域協議会に諮問があった。地域協議会としては了承したが、その経緯が、正確に市民の皆さんに伝わっていない部分があって、「何で廃止したんだ。」といった意見があちこちにいっぱいある。当時の地域協議会でも、いろいろ意見が出たが、最終的には、廃止することについてやむを得ないということになったものなので、その経緯が簡単にわかる資料を事務局で用意してほしい。

【磯田会長】

諮問のときの会議録をお配りする形でよいと思うが、事務局に対応をお願いしたい。

その他について、事務局何かあるか。

【石崎係長】

- ・次回協議会の日程について説明

【磯田会長】

- ・次回協議会：3月11日（火）午後6時30分から

ほかに意見等はあるか。

【増田委員】

今、通年観光計画に基づく屋台会館での社会実験が行われており、イベントらしきものが散発的に行われている。以前、地域協議会に説明をいただいてから、ほぼ半年経つので、中間報告をしてほしいと思う。

この社会実験を通じて、ここをマネジメントできる組織を検討し、社会実験後もその組織が自主的に活動していくことを狙っているが、そのような組織が出てくるような雰囲気ではなくて、とりあえずイベントをやればよいというふうに見受けられる。そこら辺のところをしっかりと説明してほしいと思う。

もう一つは、うみまちアートは、団体が実行委員会を組んでやっているが、そこに市の補助金も入っている。どのようにやってどうなっているのか、3月末に団体から報告書が出てくると思うので、その報告書を私たちにも見せていただいて、一緒に考えていきたい。一緒に考えていくというのは、私たちとしては、直江津の町をどうするかという観点でいろいろと考えているので、そういうことが行われているということを確認した上で、考えていく必要があると思う。

それから三つ目は、直江津に関する予算や事業を、議会が終わったら概略を全部まとめていただいて、地域協議会で私たちに説明をしてほしいと思う。

直江津全体の動きを把握した上で、地域協議会のことを考えていかないといけないということからのお願いである。

もう一つは、委員の皆さんに地域協議会や地域独自の予算等についてアンケートがあったが、会長会議の資料では、アンケート結果を受けた今後の地域自治の報告や意見交換が予定されていた。そういったことも追々あるということ、皆さんの中でお考えいただいて、地域協議会の在り方や地域独自の予算の在り方をどうしたらいいか、新年度になってから考えていく必要があるのではないかと思う。今の防災に関することの自主的審議のこともあるので、日程的にはすごく厳しい。

4月はいろいろな行事もあって、非常に皆さん忙しいのだが、月1回、のんびりとやっているわけにはいかない。場合によっては月2回ということもあり得るということ、皆さん考えておいていただければ大変ありがたい。

【磯田会長】

今日市役所で文教経済常任委員会の所管事務調査を傍聴してきた。議題は通年観光計画の進捗状況についてだったが、最初の社会実験の意義や目標のところまで到達してお

らず、イベントのためのイベントをやっているような状況が見てとれて、非常に危惧している。

その辺のことも含めて、魅力創造課の方から来ていただいて、進捗状況や今後の見通し、今後の地域で担える団体や組織を作っていくというような、大きな目標があるわけだが、そこに対してのアプローチをどうしていくかというようなことを協議会としても確認して、注力しなければならないと思っている。

うみまちアートも、どのような活動をして、どのような趣旨で、どのように動いてきたかということは、直江津のまちづくりを考えるうえで理解しておきたいところだが、資料を出せるかどうかというところだと思う。

直江津に関する事業、予算の一覧のようなものは、事務局で対応できるか。

【佐藤所長】

当初予算がこれから議会に上程されるところだが、直江津区分として予算が積み上げられているわけではないので、それを細分化するのは非常に困難である。

また、うみまちアートについては、実施主体は市ではなく民間の実行委員会組織なので、その点も踏まえて難しい場合はまた相談させていただきたい。

【磯田会長】

増田委員、このような回答でよいか。

【増田委員】

はい。

【磯田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。